

第4学年 外国語活動 学習指導案

松山市立たちばな小学校
外国語専科 吉見香奈子

1 単元名 えひめのスペシャルパフェをつくろう ～My レシピをご紹介～
(Let's Try2 Unit 7 「What do you want? ほしいものは何かな?」)

2 単元の目標

友達やALTに、愛媛の食材を使ったパフェのよさやおいしさを紹介するために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものの名前や数、考えや気持ちを伝え合う。

*本単元における「聞くこと」については、目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。

<言語材料>

○やり取り
 ・What do you want? I want (apple), please.
 ・How many? (Two), please.
 ・Here you are. Thank you.

○果物
 apple, banana, cherry, kiwifruits, strawberry, peach,
 orange, grapes, pineapple, blueberry, melon

○野菜
 vegetable, potato, cabbage, corn, carrot

○食品
 sausage

[既習] What's this? It's a (fruit).

Do you like (peach)? Yes, I do. / No, I don't.

数 (1~60)

3 学習指導要領における領域別目標

聞くこと ア	ゆっくりはっきりと話された際に、時分のことや身の回りの物を表わす簡単な語句を聞き取るようにする。
話すこと (やり取り) ウ	サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと やり取り	食材の言い方や数について、“What do you want?”や、“～ please.”などを用いて、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しんでいる。	友達やALTに自分の考えた愛媛のスペシャルパフェのよさやおいしさを紹介するために、相手に伝わるように工夫しながら、必要な食材や数、基本の表現を用いて、考えや気持ちを伝え合っている。	友達やALTに、自分の考えた愛媛のスペシャルパフェのよさやおいしさを紹介するために、相手に伝わるように工夫しながら、必要な食材や数、基本の表現を用いて、考えや気持ちを伝え合おうとしている。

5 指導観

(1) 教材観

本単元は、地元・愛媛の農産物を味わえるパフェのオリジナルレシピを紹介し合うために、食品の名前や数を聞いたり尋ねたりするやり取りを行うことで、関連する英語表現に慣れ親しみ、コミュニケーションの楽しさを味わうものである。

この実践では、ただ自分が食べたいパフェを作るのではなく、食べた人に伝えたいメッセージをパフェのレシピを紹介することを通して表わそうとするものである。活動の基にする教材 Let's Try2 Unit7 では、市場のイラストを用いて果物・野菜の英語の名称に慣れた後、チャンツを歌いながらサラダを作る場面を挙げて主要なやり取りのフレーズに親しみ、その後、パフェを作るための食材を得るために買い物の場面でやり取りを行うことが提案されている。この活動に、県内で生産された農産物を主とする県産品や、その生産に携わる人々の働きを尊重しようとする思いを加えることで、自分が育った故郷の良さを再認識し、「作ること・使うこと・人や物とのつながり」等に対する認識を深めることができると考える。これは、SDGs 17 目標の 8・11・12・17 に繋がり、自己肯定感をもって、主体的に生活しようとする気持ちを育む一歩となることも期待できる。

パフェで故郷のよさを伝えるという目的・場面・状況は、三年生で慣れ親しんだフレーズである “What do you want?” “I want ~, please.” “How many ?” “Do you like ~.” に、本物のやり取りであるという自信や誇らしさ、ワクワクする感覚をもたらすとともに、今後も、言葉で通じ合う活動に向かおうとする主体的な力になると考える。

(2) 児童観

4年生の外国語活動も残す単元が2つになったこの時期、児童は、友達や指導者と簡単な語句やフレーズを用いたコミュニケーションを図る体験を重ねて、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。また、自分のものとなった既習表現を使って、複数回のやり取りに対する興味関心や意欲も高まってきている。話す内容や状況においては、スキルを上げる練習のためのやり取りと、自分の本当の考えを伝えるやり取り（言語活動）では、その意欲に大きな差が見られ、英語表現を使って実際にコミュニケーションする場面では、自分の思いが通じる喜びや友達とのコミュニケーションの楽しさを表情に表わしている。

4年生の社会科は、故郷・愛媛の地形や生活、伝統や産業、国際交流を主な学習内容とし、自然の利を生かした柑橘類生産を主とする農業の様子を知ることから始まった。年度末を控えたこの時期は、伝統産業である砥部焼をテーマに、その歴史・地形との関係・製造過程・技術継承・町づくりの工夫等について学び、その結果、自分が住む故郷・愛媛県の良さを改めて認識し、まだ知らない他者に伝えたい気持ちを高めている。

(3) 指導観

本単元では、まず、果物のイラストと愛媛の産物を記した絵地図を併用し、外来語として知っている果物の名称を英語で聞いたり話したりして、その音声に慣れ親しむことから始める。その後、栄養教諭との連携により、名産地である他県の農産物の紹介とともに、地域でも美味しい農産物が得られることを知らせ、「地産地消」という言葉や、より身近な果物を意識できるようにする。

次に、チャンツやカードゲームを通して、“What do you want?” “I want ~, please.” “How many ?” “Do you like ~.” 等、やり取りに必要なフレーズに慣れ親しむための活動を行う。その際、相手に聞きやすい話し方で尋ねたり応えたりすることの大切さや、両手で物を渡すことで丁寧な気持ちが表現出来ること、一言を加えてやり取りしたり反応したりすることでコミュニケーションの楽しさが深まること等に気付かせる。

その上で、これまでの学習をつなぐきっかけとして、砥部焼を使ったカフェを営む砥部焼職人からのメッセージ動画を視聴する。1人1台端末の機能を使って、自分で選んだ砥部焼

の器に、自分が薦めたい愛媛の農産物を選んで盛り付けたパフェの画像は、伝えたい気持ちを強く支える。この活動を通して、地域の良さを知り、故郷の文化や暮らしをよりよくつないでいこうとする気持ちに繋がりたい。

(4) ESD との関連

※本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

多様性…愛媛には、その土地の様子を生かした様々な産業や生産物、また、それらを受け継いできた多様な歴史や工夫がある

相互性…愛媛で生産された物は、それぞれの良さを組み合わせたり補い合ったりすることで、より良いものや新たな価値を生み出すことができる。

連携性…様々な産業に携わる人々や、その価値を知る人々がつながることにより、生産の付加価値や発信力を高めることができる。

責任制…地元・愛媛の産業や伝統文化の良さを、周囲の人々や将来に引き継いでいくのは、故郷を知りここで暮らす自分達の役割である。

※本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力(システムズ・シンキング)

…農産物生産や伝統産業に、取り組み関わる人々が継続して働くことができ、その価値が守られる社会の仕組みをつくることが、自然環境保護につながることを理解する。

コミュニケーションを行う力

…様々な生産物の良さやその生かし方について友達と考えを知らせ合ったり、生産に関わる人々と学習を通してつながったりすることで、仲間づくりや世代継承を行う意味について考えたり主体的に交流したりしようとする。

つながりを尊重する態度

…農産物と伝統工芸品、食文化と経済、広報等、異なる物や領域の価値をつないで見直すことで、6次産業的な物が生まれたり、新たな働き方を生んだりすることのよさを理解する。

※ESD で育てたい価値感

自然環境、生態系の保全を重視する(生物多様性の重視)

…パフェに使う農産物を通して、生態系サービスの価値や、地産地消によるフードマイレージ削減の意味に気付き、環境を重視した消費生活について考えようとする。

人権・文化を尊重する(文化多様性の尊重)

…盛り付けに使う器はガラスのパフェグラスだという固定意識をもつことなく、愛媛の伝統的な砥部焼の技術や、時代に対応して進化し続ける職人の思いを大切にして、パフェの紹介に生かそうとする。

※達成が期待される SDG s

目標 8 働きがいも 経済成長も

目標 11 住み続けられる まちづくりを

目標 12 つくる責任 つかう責任

目標 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

6 教科横断的単元イメージ

第4学年終了時に目指す姿

地域に誇りや愛着をもち、地域の産業や自然環境を守り育てる人々の思いや願いを大切にするとともに、自分にできることを進んで考え、実践しようとする。



(前年度)
3年社会科
「みかん農家の仕事」

柑橘類生産に携わる人々の土地利用・自然環境を生かした生産の工夫や、たくさん買ってもらうための工夫について考え、農家の仕事と自分たちの生活との関わりや繋がりを考える。

おいしさのために努力や工夫を重ねて働く生産者はすごい。愛媛の誇りの1つだな。

4年社会科
「県の広がり」

愛媛県は海山の事に恵まれており、温暖な気候を生かした農業や水産業が盛んであることを知る。交通物整備も進み、土地の様子を生かした工業がさかんな地域もあることを理解する。

愛媛の自然を生かした農業や工業はおいしい物や品質のよいものをたくさん生み出しているね。

外国語活動

「えひめのスペシャルパフェをつくろう
～My レシピをご紹介～」

○主に養いたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力

・農産物生産や伝統産業に、取り組み関わる人々が継続して働くことができ、その価値が守られる社会の仕組みをつくるのが、自然環境保護につながることを理解する。

コミュニケーションを行う力

・様々な生産物の良さやその生かし方について友達と考えを知らせ合ったり、生産に関わる人々と学習を通してつながったりすることで、仲間づくりや世代継承を行う意味について考えたり主体的に交流したりしようとする。

つながりを尊重する態度

・農産物と伝統工芸品、食文化と経済、広報等、異なる物や領域の価値をつないで見直すことで6次産業が生まれ、新たな働き方を生んだりすることのよさを理解する。

○主に育てたい ESD の価値感

自然環境、生態系の保全を重視する
(生物多様性の重視)

・パフェに使う農産物を通して、生態系サービスの価値や、地産地消によるフードマイレージ削減の意味に気付き、環境を重視した消費生活について考えようとする。

人権・文化を尊重する(文化多様性の尊重)

・盛り付けに使う器はガラスのパフェグラスだという固定意識をもつことなく、愛媛の伝統的な砥部焼の技術や、時代に対応して進化し続ける職人の思いを大切にして、パフェの紹介に生かそうとする。

4年外国語活動

「Unit5 おすすめの文房具セットをつくろう」

身の周りの文房具の名称を知り、友達に喜んでもらえるおすすめ文房具セットを考え、“Do you have a～?”“Here you are.”等のフレーズを用いて、贈る気持ちを伝えようとする。

相手に喜んでもらえるセットをつくるには、おすすめポイントを分かりやすく伝えたいんだな。

外国の輸入だけに頼らなくても、地産地消できる物があることが分かった。もっと県産品のよさを知りたいな。

4年社会科
「伝統産業のさかんな町」

砥部焼の伝統と優れた技術を受け継ぎ、更なるよい作品を作るため、砥部焼に携わる人々はどのような工夫をしているのか考えたり調べたりすることで人々の砥部焼に対する誇りと愛情に気付く。

伝統ある砥部焼もデザインの工夫で洋食や飾りなど、使いやすい物が色々増えているね。

食育

体験活動を通して、国際理解・環境・情報・福祉等の様々な側面の関わりから食文化や食に関わる課題に触れ、豊かな心と望ましい食習慣を身に付けることができるようにする。

7 単元計画 (7 時間 外国語活動 4.5 時間 社会科 2/8 時間 食育 0.5 時間)

時	教科等	主な学習活動 ◆目標	評価			評価方法
			知識技能	思考判断表現	主体的態度	
1	外国語活動	<p>◆日本語と英語の音声の違いに気付くと共に、野菜・果物の名前や数などを表わす英語の言い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A L T の発音を聞き、市場の絵にある野菜や果物の名前を言う。 ・個人やペアで、ポインティングゲームをする。 ・指導者が作成したえひめパフェを見て、単元ゴールへの見通しをもつ。 				<p>外国語：本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
2	外国語活動・社会科	<p>◆野菜や果物の名前や数の言い方・尋ね方に慣れ親しみ、欲しいものを尋ねたり応えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛の名産地図を見て、各市町でとれる野菜や果物の名前の英語表現を知る。 ・市町ペアリングゲームや、一本橋ゲーム・ミッシングゲーム等で、愛媛の野菜や果物の名前の英語表現やその音声に慣れ親しむ。 				<p>行動観察(発表)ワークシート</p> <p>外国語：本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。 社会科：県内 20 の市町それぞれ名産品があることを知り、そのよさを調べている。</p>
3	社会科・食育	<p>◆愛媛では、豊かな自然や市町の土地の様子を生かして、多くの産業が行われていることを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物の生産量グラフや、工業製品生産額の図表、生産物絵地図を見て、愛媛の様子を捉える。 ・栄養教諭のメニューづくりの話や聞き、地産地消の良さや環境保護との関わりを理解する。 				<p>行動観察(発表)話し合い活動</p> <p>社会科：愛媛の特産品や産業について、資料を生かして捉えようとしている。 食育：地産地消について考えを深め、日常のメニューについて、振り返ろうとしている。</p>
4	外国語活動	<p>◆野菜や果物の名前、また、欲しい物や数を尋ねる言い方に慣れ親しみ、友達と尋ねたり答えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンツのリズムにのせて、“What do you want?” “I want ~, please.” “How many?” “Here you are.” “Do you like.” の音声に聞き慣れる。 ・絵カードを使い、欲しい野菜・果物や、その数を伝えて、カード集めのために尋ねたり答えたりすることを楽しむ。 	やり取り ○			<p>行動観察(メニューカードゲーム)</p>
5 6	外国語活動・社会科	<p>◆友達やA L T に、愛媛の食材のよさやおいしさを紹介するために、砥部焼のデザインや果物等の食材を選んでパフェカードを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砥部焼職人からのメッセージ動画を視聴し、愛媛の名産地図を見て、紹介したいことを考える。 ・果物等の食材カードを組み合わせて愛媛のパフェカードを作り、レシピ説明の練習をする。 	やり取り ○	やり取り ○		<p>1人1台端末のパフェカード(録音・絵カード)パフェ紹介メモ 行動観察(説明練習)</p>
7	外国語活動	<p>◆友達やA L T に、愛媛の食材や砥部焼の器を使ったパフェのよさやおいしさを紹介するために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものの名前や数を尋ねたり応えたりして伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作った愛媛のパフェカードを見せながら、基本の表現を用いてよさやおいしさを進んで伝えようとする。 	やり取り ○	やり取り ○	やり取り ○	<p>行動観察(紹介のやり取り)</p>

8 実践を振り返って

外国語専科として行う週1階の外国語活動の授業の中で、ESDに関わる価値感や、資質・能力を意識した取組みを行うことには、時間的・内容的な制限が多い。この課題を改善するための手立ての1つが、教科横断的な内容を取り入れた教材のカスタマイズと、学級担任等との相談・連携である。本単元では、4年生全学級の担任と内容に関わる進捗確認や児童の様子について話す場をもった上で児童の意識の流れを意識した学習活動を構成した。さらに、本校に勤務する栄養教諭とも連携し、食の達人としての立場から生産の様子や、環境に配慮した地産地消など、食に関する国際理解と地域理解を対照して考える場面を設定した。

これまで、身近な事柄に関する言葉を取上げて、楽しみながら英語表現を広げてきた児童であるが、本単元の取組みには、いっそうの意欲を見せていた。いくつか考えられる大きな理由は、地域で生産されている果物を取上げたことで、一般的な物としてではなく、自分事(自分に関わるもの)としての果物に意識が変わったからだと思われる。

また、砥部焼作家に取材し著作権許可をいただいた上で実際の砥部焼の画像を作成したことや、相手に喜んでもらえる物づくりを心掛けていることを添えて、児童へのメッセージをいただいたことも活動への動機付けとして大きく働いた。これら教材作成に関わる事においては、ICT機器を効果的に活用できた。

話したり聞いたりすることを通して英語表現に慣れ親しむことを目標とする外国語活動だが、過年度の実践では、コミュニケーションツールの一部であるパフェの絵の作成に大きく時間が取られてしまったり、絵の得手・不得手が対話の壁になってしまったりと、本末転倒な部分が見られた。これに対し、1人1台端末の機能を生かすと、準備に時間は要するものの、その後の学習活動を効率的に進め、思考する時間をつくることができる。それにより、相手の立場を考えた話し方・示し方の工夫や、社会科・食育等との内容関連について、加えてESDの視点についても考えを深めることができた。コミュニケーション活動中での「愛媛のスペシャルパフェ」についてのレシピコメントにも成果は表われていた。



〈4年学習資料
「ふるさと松山」より〉



〈カフェも営む砥部焼作家からの
メッセージ動画〉



Myとにかく豪華なパフェ

★Myとにかく豪華なパフェをつくったよ★

〈4年 組 番・名前： 〉

このパフェのおすすめポイントは、何といてもこの見栄えのいいおいしそうなところです。クリームや豪華な果物をふんだんに使って、より見栄えが良く、おいしいパフェに仕上げられています。この中で一番のこだわりポイントは、とても豪華な国産バナナや愛媛だけでとれるとても珍しい紅まどんを贅沢に使って、作っています。国産バナナや紅まどんの後ろにクリームがありますが、あのクリームは愛媛県の四国カルストでできた作りたてのクリームです。国産バナナや紅まどんなど四国カルストでできたクリームの味がよくあっていて、とてもおいしく、色々な種類の果物があるので、いろんな味が味わえます。ウエハースとクリームや果物の味の相性がとてもいいので、ごちゃごちゃ味がまざらないようになっています。砥部焼の模様は、フルーツの色と相性がよさそうな砥部焼を選んで、もっと見栄えをよくしています。

〈コミュニケーション活動で使った
スペシャルパフェ作品カード〉

自分の本物の思いや考えを英語で表現する「言語活動」は、外国語活動の要である。また、既習事項や現時点での他教科等との関連を考慮し、単元のゴールとなる児童の姿を見通した単元計画を作成することにより、ESDの視点は児童にも授業者にも育つことになると考える。今後も、自分事とESDをつなぐ具体的手立てについて、実践を重ねていきたい。



〈栄養教諭との連携授業〉